

WEEKLY SIGNAL

平成31年3月15日(金) 1466号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	3/18(月)	3/19(火)	3/20(水)	3/21(木)	3/22(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 400	ト ン	△1,000		△1,000
財政他	△900	+ 4,000	+ 98,000		+ 4,000
資金需給	△500	+ 4,000	+ 97,000		+ 3,000
主要要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)		国庫短期証券 発行・償還(1Y) 国債発行(20年) 国債償還 (5、10、20、変動15年)		
オペ期日	共通担保(全店) △2,600 国債補充供給 + 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,600 ETF買入 + 200			祝日	
(日本)	貿易収支(2月)	資金循環統計(速報、10-12月期)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (1月22、23日分) 月例経済報告(3月)		消費者物価指数(全国、2月)
(海外)	米 NAHB住宅市場指数(3月)	米 FOMC(20日まで)	米 FOMC声明発表 米 ハウエルFRB議長の会見 米 経済予測公表	米 フィアデルフィア連銀 製造業景況指数(3月) 米 新規失業保険申請件数(16日終了週) ユーロ圏 消費者信頼感指数(3月、速報) 欧 EU首脳会議(22日まで) 欧 ECB経済報告	米 卸売在庫(1月) 米 中古住宅販売件数(2月) 米 財政収支(2月) ユーロ圏 総合PMI(3月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金は週初、375兆1,600億円から始まった。その後、同残高は13日の源泉税揚げを主因に374兆円台まで減少したものの、14日の国債買入等を経て週末となる15日には376兆5,600億円まで増加した。
無担保コールON物の加重平均金利は週初△0.024%から始まった。その後は、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズの高まりから、同金利は上昇基調となり、△0.023%~△0.021%で推移し、積み最終日となる15日には△0.021%となった。
ターム物は1~2W物を中心に、主に△0.02%~△0.01%台での取引がみられた。
14日、15日に日銀金融政策決定会合が行われ、金融政策の現状維持が決定された。
日本銀行が11日に発表した「日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しについて」によると、日銀当座預金のうちマクロ加算残高の算出に用いる基準比率は、3月積み期間が32.5%、4~5月積み期間が35.5%となった。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.20 ~ △0.13
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約4,200億円で、週間償還額(約9,600億円)に対し償還超となった。発行市場は、その他金融や商社等の大型償還からやや閑散なマーケットとなり、市場残高は先週末の20兆6,515億円から漸次減少し、20兆円台前半で推移した。発行レートは、期内物については0%近辺での出合い、期越物は積極的な購入ニーズもあり、0%からマイナスでの出合いとなった。5日に、CP等買入オペが予定通り3,500億円度でオファーされた。オファー額の増額を受け、按分落札レート△0.006%、平均落札レート0.000%といずれも前回(按分△0.001%、平均0.005%)から低下した。
来週の償還総額(3/11~3/15)は、1兆3,000億円程度となっている。発行市場は先週同様、大型償還案件が重なり償還超となる見込みで、閑散なマーケットが予想される。発行レートは、期内物で0%近辺での出合い、期越物は0%からマイナスレートでの出合いとなろう。12日に、CP等買入オペが3,500億円程度オファーされる予定となっている。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は、GCLレートの週末にかけ低下基調を辿ったことから、国庫短期証券利回りも強含む展開。14日入札の3M820回債は最高落札レート△0.1358%(前回債△0.1210%)、平均落札レート△0.1437%(同△0.1291%)と前回債からやや低下した。セカンダリー市場では20日の大量償還を意識した買いが入り、同3M物は△0.15~0.16%程度と入札水準よりやや低めの出合となった。来週は19日に1Y、22日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.015%~△0.035%から始まり、週央にかけて△0.06%~△0.08%まで低下。15日受渡しは後場△0.08%~△0.10%の出合い。新積み期入りとなる18日受渡しは、前場△0.10%台前半。後場は△0.09%台まで上昇した。SC取引では10年353回債のbidが多く、国債買入オペがオファーされた14日受渡しで△0.08%~△0.09%の出合い。5年138回債は入札日日前日△0.04%近辺で多く取引された。他2年395・396・397・398回債、5年135・136・137回債、10年334・335・336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352回債、20年164・165・166・167回債、30年59・60・61回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。